

令和8年度 学校評価計画表

徳島県立穴吹高等学校

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	
1 確かな学力の育成 学習指導・進路指導の充実	1-1 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	1① 生徒対象の進路ガイダンス、進路模擬授業及び保護者対象の進路説明会等の行事を年間5回以上実施する。	1① 各行事の内容を精選し、生徒の興味・関心・適性等に沿ったものにする。また、保護者等に積極的な参加、参観を勧めるために進路説明会の内容を工夫する。	進路課
		1② 家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各年次において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	1② 考査期間を含む1週間の家庭学習時間調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容についてHR担任や教科担任が助言する。	進路課
		1③ 基礎学力の定着のため、個々の生徒に合った内容の課題に取り組ませる。スタディサプリで配信された課題に対し、提出率50%を目指す。	1③ スタディサプリ利用環境を整え、到達度テスト連動課題及びその他の宿題配信を行う。生徒の取り組み状況を把握し、担任や教科担当教員の細やかな声かけ等により主体的な活用を促し、取り組みが良好な者を表彰する。	進路課
	1-2 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	2① 生徒への授業アンケートで「自分が積極的に取り組んでいると思える授業とその理由」を問い、その集計結果を全教員に伝える。	2① 1・2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を共有することにより、全教員の意識改善と授業力向上に取り組む。	教務課
		2② 他の教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。授業見学率100%を目指す。	2② 1・2学期に各1か月全ての授業を公開し、他の教員の授業を参観できるようにする。参観することで、自らの授業力の向上につなげる。また、授業者も参観シートで助言などを受けることにより授業実践力の向上を図る。	教務課
		2③ 生徒への授業アンケートで「教師が工夫してくれていると思う授業とその理由」を問い、その集計結果を全教員に伝える。	2③ 1・2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を共有することにより、全教員の意識改善と授業力向上に取り組む。	教務課

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	関係各課
2 基本的 生活 習慣 の 確立	2-1 学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	1 将来、働くことや自立することを見据え、学校や社会のルールを伝える機会を確保するとともにソーシャルスキルトレーニングを実施する。	1 計画的に年次集会や頭髪服装指導を行うほか、気になる生徒には個別に声かけや指導を行う。また、毎月の校内人権の日においてソーシャルスキルトレーニングを実施し、動画説明やグループワークを取り入れながら生徒の理解が進むよう工夫する。	生徒指導課 人権教育課
	2-2 学校生活を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	2 学校生活アンケートで「穴吹高校の生徒は、挨拶（会釈を含む）をしている」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2 気持ちよく一日のスタートがきれいよう、生徒会役員がリーダーとなり、積極的に挨拶を行う挨拶運動を毎月20日の朝に実施する。学校生活のさまざまな場面で、全校生徒が挨拶や会釈を交わすことのできる習慣形成を図る。	特別活動課 生徒指導課

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	関係各課
3 他 者 と 協 調 ・ 協 働 で き る 力	3-1 自他の生命や人権を尊重する態度を養う。	1 いじめの早期発見や未然防止に努め、学校が安心・安全の場となるように体制を整える。	1 日ごろから生徒の様子について情報交換を密にする。いじめに関するアンケート結果は年次団に周知し、必要に応じて個別聞き取りを行い対応する。また、スクールカウンセラーによる相談について生徒に周知する。	人権教育課 生徒指導課 保健防災課
	3-2 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	2① 人権ホームルームを年間5回、人権問題意識調査を年2回実施し、生徒の意識の変化を分析する。	2① ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、その目的を明確に伝えるとともに生徒の関心や現代社会の実情に合わせた内容を実施することで、生徒の学習意欲を喚起する。	人権教育課
		2② 生徒の「わかる」「できた」を増やすために指示の仕方や提示方法を工夫する。また生徒が教員から自身のよいところを認められていると感じられるよう、生徒との関わり方を工夫する。	2② 人権教育教職員研修やポジティブ行動支援の研修、特別支援教育に関する研修を実施する。	人権教育課 保健防災課
	3-3 礼儀正しい態度を育成し、コミュニケーション能力を高める。	3① 部活動生集会を各学期に1回ずつ開催する。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会を作る。	3① 部での活動全てが学校の活性化につながることを自覚させるために、部活動生集会を開催する。また部活動が生徒にとってよりよい成長の場となるよう部活動顧問、担任、教科担当教員が連携し指導にあたる。	特別活動課
		3② 華の丘祭のアンケート（生徒・教員対象）において、「生徒が華の丘祭の運営に協働して取り組むことができていた」と肯定的に回答する人の割合が80%以上を目指す。	3② クラス・委員会活動・部活動で協力して準備・運営を行えるよう担当教員が連携して指導にあたる。	特別活動課
	3-4 成年年齢の引き下げに伴い主権者としての自覚と実践力を養う。	4① 県が実施するアンケートで「18歳になれば選挙に行こうと思う」という問いに肯定的に回答する人の割合が70%以上を目指す。	4① 学校全体の教育活動を通じて、生徒一人ひとりが政治や選挙への関心を高めることができるよう指導にあたる。	主権者教育

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	関係各課
4 地域に開かれた信頼される学校づくり	4-1 ふるさとに誇りを持ち、協働して働く力の育成を図る。	1① 地域に貢献する取組を年間5回以上行う。	1① 地域と連携する活動に積極的に参加する。地域の人と関わりながら、地域の活動に貢献する実感を通して自分のふるさとへの愛着と、協働する喜びを得る。	特別活動課
		1② 地域に貢献する活動に参加する生徒を増やすよう努める。	1② 地域貢献活動の意義をすべての教職員が理解し、総合的な探究の時間、講演会、地域の農業体験などの活動を通してその魅力を生徒に伝え、その活動への生徒の積極的な参加を促す。インスタグラムを活用し、生徒がみつけた地域の魅力を発信することで生徒の地域貢献活動の意欲向上の一助とする。	
	4-2 地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる。また、広報活動を積極的に行う。	2① 穴吹高校への入学志願者を増やすために広報等に努め、また、本校の生徒にもそのためにできることを考えさせ、実行させる。	2① ホームページで中学生体験入学や11月のオープンスクールの日について情報発信を行う。また、8月の体験入学に本校の生徒が主体的に参加するように促し、穴吹高校の生徒が生き生きとしている様子に中学生やその保護者に接してもらうことで入学したいと志願する生徒を育成する。	教務課
		2② 穴吹高校の生徒が、中学校への学校説明に参加する機会を作る。	2② 学校説明に参加したい生徒を募り、中学生の興味を惹けるような学校説明に本校の生徒が主体的に関われるようにする。	教務課
		2③ 保護者アンケートにおいて「学校からの通知や広報物に目を通している」と答える保護者の割合を60%以上を目指す。	2③ 広報や通知等を郵送するだけでなく、学校ホームページへの掲載やさくらメールの活用により情報発信を多く行い、保護者が目を通しやすいように図る。	総務課 人権教育課
		2④ ピアノコンサートを年1回以上開催し、近隣中学校生徒や同窓会員にも公開する。	2④ ピアノコンサートを開催することで地域有志より寄贈された本校のスタインウェイピアノを周知すると共に、同窓会活動の活性化の一助とする。	総務課

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	関係各課
5 働き方改革の推進	5 - 1 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。	1 ① 時間外勤務が月45時間を超える教員をなくすよう努める。	1 ① 出退勤管理システムを活用し、職員自らが勤務時間を把握する。また、管理職及び職員間でのサポート体制を構築し、勤務の均等化を図りながら、対象教員の育児・看護・介護休業や年休などの休暇取得促進に努める。	管理職
		1 ② 教員が毎日11時間の勤務時間インターバルを確保できるようにする。	1 ② 職員自らが勤務時間外の業務を見直し、朝の出勤時間と夜の退勤時間のバランスを調整する。十分な休息と準備時間を確保できるよう、業務の優先順位を共有し、効率的な働き方を実現しつつ、心身の健康と教育の質の両立をめざす。	管理職
		1 ③ 月1回の定時退勤日を設定し、実施率90%以上を目指す。	1 ③ 毎月第3水曜日を「定時退勤日」として全教職員に周知し、原則として残業を控える日とする。会議や業務の調整を事前に行い、職場全体で業務を効率よく終えることに価値を置く意識を醸成する。	管理職
		1 ④ 会議を簡素化し、1回の会議を1時間以内で終了することができるように努める。	1 ④ 会議の目的・内容を明確化し、事前配布資料やICTを活用して効率的に進行する。報告や議論を要点に絞り、必要最小限かつ実りある対話を意識することで、時間を有効に活用し、業務の効率化を図る。	管理職